

# 安田善次郎年譜

西暦(和暦)	年齢	できごと
1838(天保 9)	1	10/9 富山藩の城下町鍋屋小路(現在の富山市愛宕町、安田町周辺)に安田善悦の三男(長男と次男は早逝し、実質長子)として生まれる。幼名:岩次郎。
1857(安政 5)	20	この年 郷里を出奔して江戸に至り、両替商に奉公。忠兵衛と名乗る。
1864(元治元)	27	3/2 日本橋で鯉節商および両替商を開き、善次郎と改名。屋号を「安田屋」とする。 11月 日本橋の刷毛屋藤田弥兵衛の四女・房子と結婚する。
1866(慶應 2)	29	4/14 小舟町に転居し、両替を中心に扱う安田商店を設立。
1867(慶應 3)	30	この年 江戸の治安悪化を受けて両替商が続々と休業する中でも営業を続け、幕府との古金銀取扱によって利益と信用を得る。
1868(明治元)	31	この年～ 明治政府の太政官札発行に際し、その流通に尽力、活発に取引を行う。
1869(明 2)	32	7月ごろ 富山に帰省、妹婿に河上房太郎を迎え、自らの旧名・安田忠兵衛を名乗らせる。上京した忠兵衛は安田商店の事務を一手に引き受け、善次郎を支えた。
1871(明 4)	34	この年 仙台藩御用受。これ以降、司法省金銀取扱御用(M8)、栃木県庁為替方(M9)、富山県為替方(M16)など、数々の官公庁の資金を預かるようになる。
1877(明 10)	40	この年 国立銀行設立の許可を申請、第三国立銀行の名称使用許可を得る。
1880(明 13)	43	1/1 安田商店を改組し、安田銀行を設立。これにより善次郎は 2 つの銀行の経営を担うことになる。3/7 長男・善之助(2 代目安田善次郎)誕生。
1882(明 15)	45	6/27 日本銀行創立にあたり御用係心得を命じられる。のち理事となる。
1884(明 17)	47	8/6 安田保善社規則を起草。安田財閥の経営の規範として重要視される。
1888(明 21)	51	11月 帝国ホテルの創立発起人となる。この年 乗馬の訓練を開始。
1894(明 27)	57	3/25 共済生命保険合資会社成立(今の明治安田生命の前身)。5/27 馬術教練所より卒業証書を授与される。8/31 衆議院議員に当選するも、約 1 週間で辞表を出す。本人は立候補そのものを固辞していたとされる。
1897(明 30)	60	3/30 長女暉子の婿に伊臣貞太郎を養嗣子として迎え、善三郎と名乗らせる。
1904(明 37)	67	6月 大阪の大銀行、第百三十銀行破綻の救済事業に関わる。この前後にも数々の経営不振に陥った銀行や会社の救済や、新規事業の立ち上げにかかわる。
1906(明 38)	68	5月 千宗左、河辺卓示を迎えて茶の手前を披露。河辺より茶道の免状を取得。
1908(明 41)	71	1月 東京慈恵会に金 3 万円を寄付。これ以降多くの寄付、慈善事業を行ったが、その多くは匿名で行われた。この頃から経営の第一線からは引退する。
1917(大正 6)	80	1月 浅野セメントへの巨額融資を発表。翌年には東洋汽船にも多額の増資を決定。
1920(大 9)	83	12/28 経営方針の違いなどから、実子・善之助と継嗣・善三郎の関係悪化が表面化。結局善三郎が安田家より離脱し、高齢の善次郎が再び経営に復帰する。
1921(大 10)	84	7/4 東京帝国大学講堂の建設費を寄付。現在も東京大学安田講堂として残る。 9/25 大磯の別荘に滞在中、暴漢に刺殺される。

※参考資料 由井常彦『安田善次郎 果報は練って待て』（ミネルヴァ書房 2010）

※年齢は数え年での表記。